その後皆様方には永平寺での研究を胸に秘めお過しのことと推察しています。
数少ない写真でものたりなかったかと考え、つたない画像ですがフロッピイで送ることを
思いたちました。皆様とは何かの縁で永平寺に集うことが出来たのだと思い
ここに住所も披露させていただきます。悪しからず。

私事。1年前の11月の中旬、母を亡くしました。89才でした。終戦の前年、
昭和19年に父が病死し、母は3人の幼子をかかえて、終戦後の大変な時代にまさに
必死で育ててくれました。筆舌につくせぬ苦労をしたのでした。そんなことを知り
ながらも自分は成人してから、母親に対してどうであったか。自分のことばかり
しか考えていなかったではないか。そんな思いにかられ、又は、病床についてから
の半年間、家に帰りたがって病院のままに泣きついた母に対して、自分達の
とった態度。あるきっかけで申し訳なかったと我れにかえった時は、すでにおそく、1週後
に息をひきとりました。喪に服し、もんもんとしていた時、新聞のレポートで永平寺の
ことを4月に知り、ようやく決心し行きました。おかげというか母の一周忌には、心も
少しはおさまり、お経の間も正座で通すことが出来ました。
茶話会の席で、のべられた「過去のことは過去のこと、起きてしまったことは、どうしよう
もない。立ちどまってもしかたがない。からっぽでOK」という言葉が残って
おり、永平寺のあの席で聞いたからか、いたく心にしみて癒してくれたような
気がしました。（自分をみつめ直したい）平賀さんや高橋さんの話は、
人ごとでなく、自分もそうなんだと思いました。自分にも28才の失業中の
二男がいます。そういう目で二人を見ていました。しっかりしてほしいなあと。
又何の悩みのない人ほどつまらないものはないとか、強がりたい
話もありますね。つたなく、とりとめのないことを書きました。皆様には
聞いてもらえると思い、少しうさんくさくなりましたが、3月4日、同じ
場で座り、空気を共有した仲としておゆるし下さい。
つけたしで、大変な時代ですがよいお正月を
平成13年12月15日　信田